

2026年1月16日

最近の長野県経済の動向 (月例調査)

概要

全国景気*	米国の通商政策等による影響が自動車産業を中心にみられるものの、緩やかに回復している
長野県内景気	足踏みの状態にある
10月の生産動向	生産はこのところ弱含んでいる
11月の個人消費	乗用車新車販売台数は5カ月連続で前年を下回る
11月の公共投資	公共工事保証請負額は3カ月ぶりに前年を下回る
11月の住宅投資	新設住宅着工戸数は2カ月連続で前年を上回る
11月の雇用情勢	有効求人倍率は2カ月ぶりに前月を上回る
今後は、米国の通商政策の影響や、個人消費に影響を与える物価や賃上げの動向を注視する必要がある。	

※内閣府「月例経済報告(2025年12月)」より

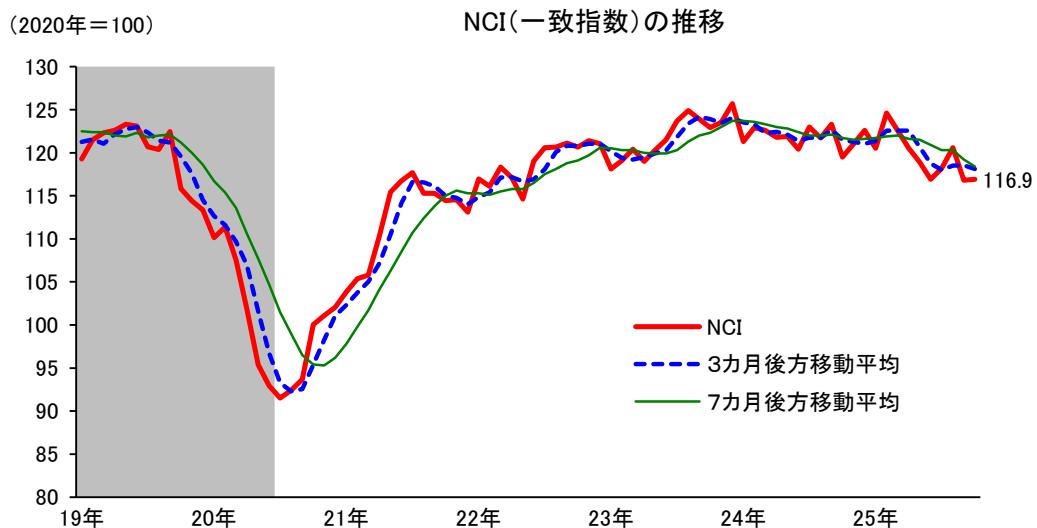
照会先

一般財団法人 長野経済研究所 調査部
担当 条井、須田
電話 026-224-0501



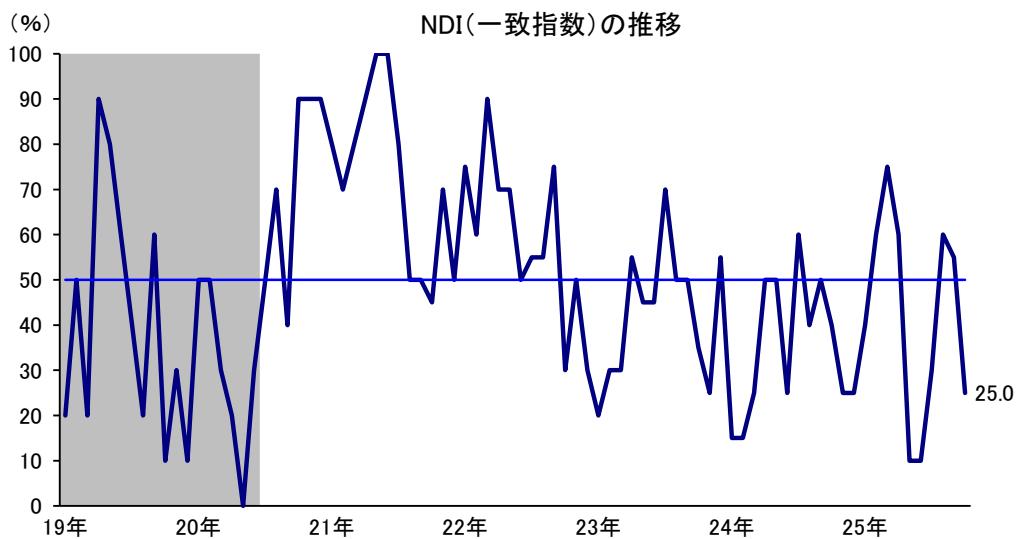
景気動向指数

- 10月のNCI(一致指標)は、116.9と前月と比較し+0.1ポイントとなった。3カ月後方移動平均は、△0.4と3カ月ぶりに低下した。7カ月後方移動平均は同△0.8と2カ月連続で低下した。NCI(一致指標)は、下方への局面変化を示している。
- NDI(一致指標)は、25.0%となり、景気判断の分かれ目である50.0%を3カ月ぶりに下回った。



(資料)当研究所「長野県景気動向指標」

(注)1.NCIは長野県の景気変動の大きさやテンポ(量感)を示す
2.シャドー部分は長野県の景気後退期を示す



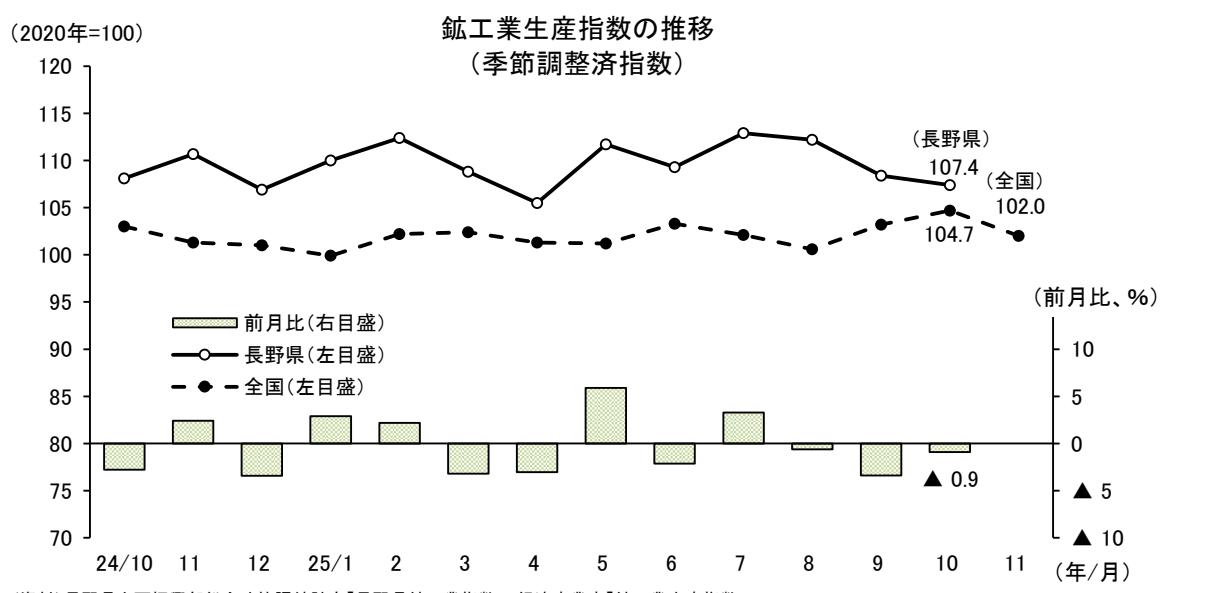
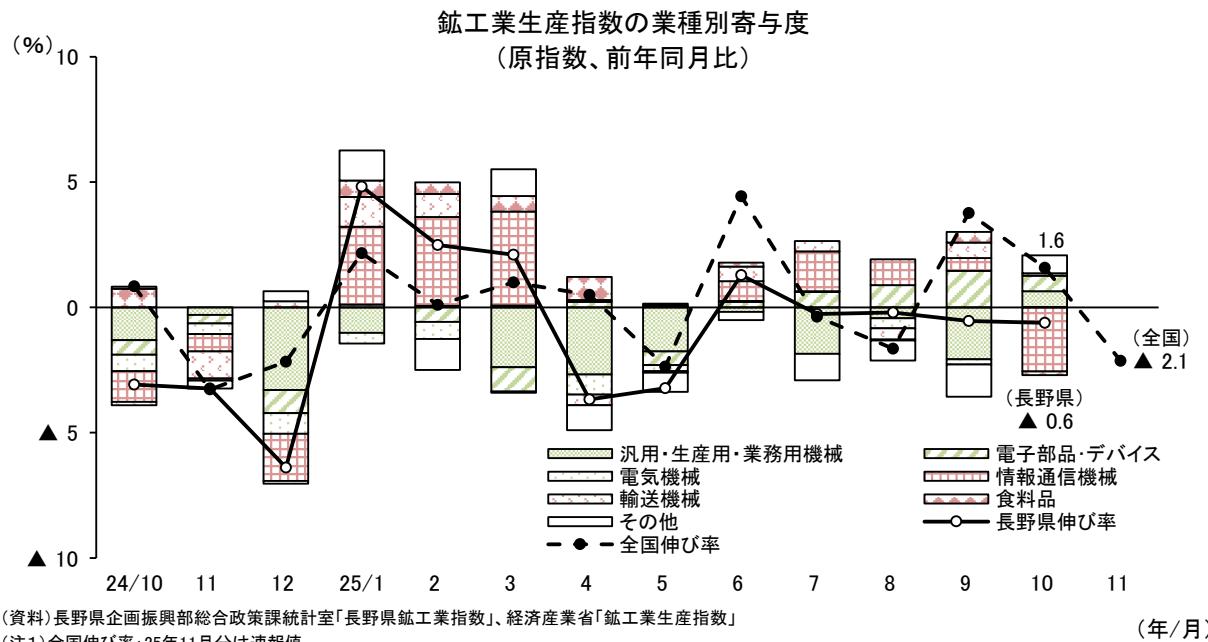
(資料)当研究所「長野県景気動向指標」

(注)1.NDIは長野県の景気の方向、波及度合いを示す
2.シャドー部分は長野県の景気後退期を示す

生産

生産はこのところ弱含んでいる

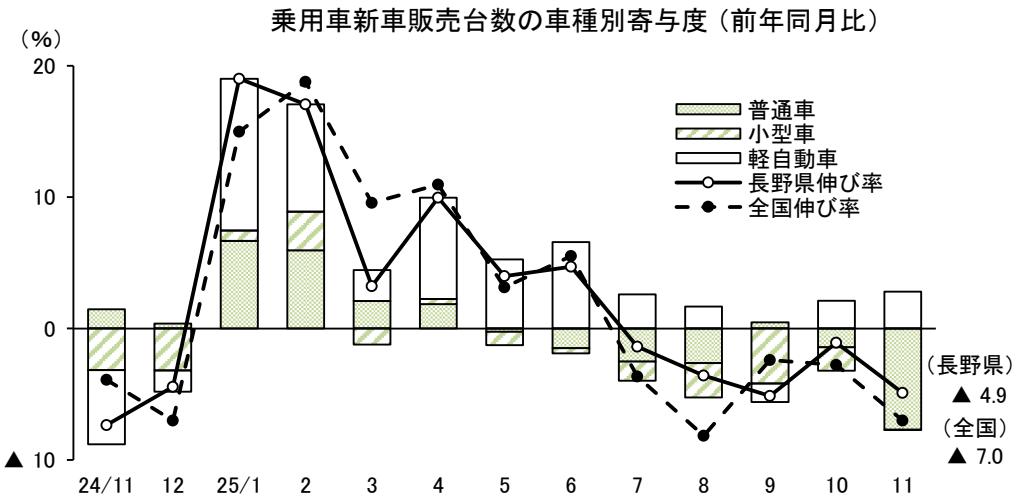
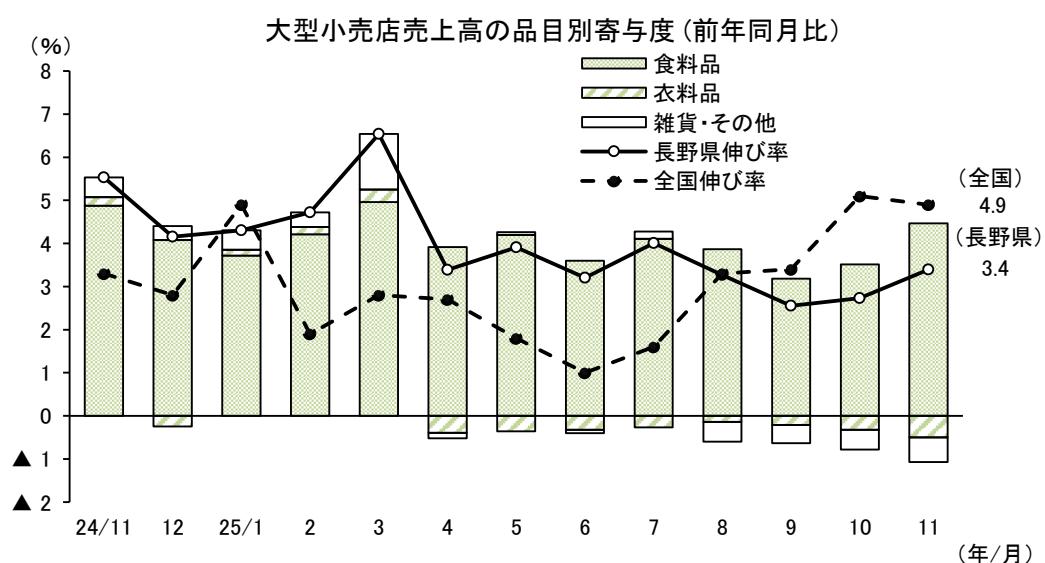
- ・10月の鉱工業生産指数は、原指数が前年同月比△0.6%、季節調整済指数が前月比△0.9%となった。
- ・季節調整済指数は3カ月連続で前月を下回ったほか、原指数も4カ月連続で前年を下回った。中国景気の低迷やIT関連需要が低調に推移する中、このところ車載関連向けでも一部に在庫調整の動きがみられるなどから、生産はこのところ弱含んでいる。
- ・主要業種別にみると、「汎用・生産用・業務用機械」「電子部品・デバイス」などが前年を上回ったものの、「情報通信機械」「食料品」などが前年を下回った。



個人消費

乗用車新車販売台数は5カ月連続で前年を下回る

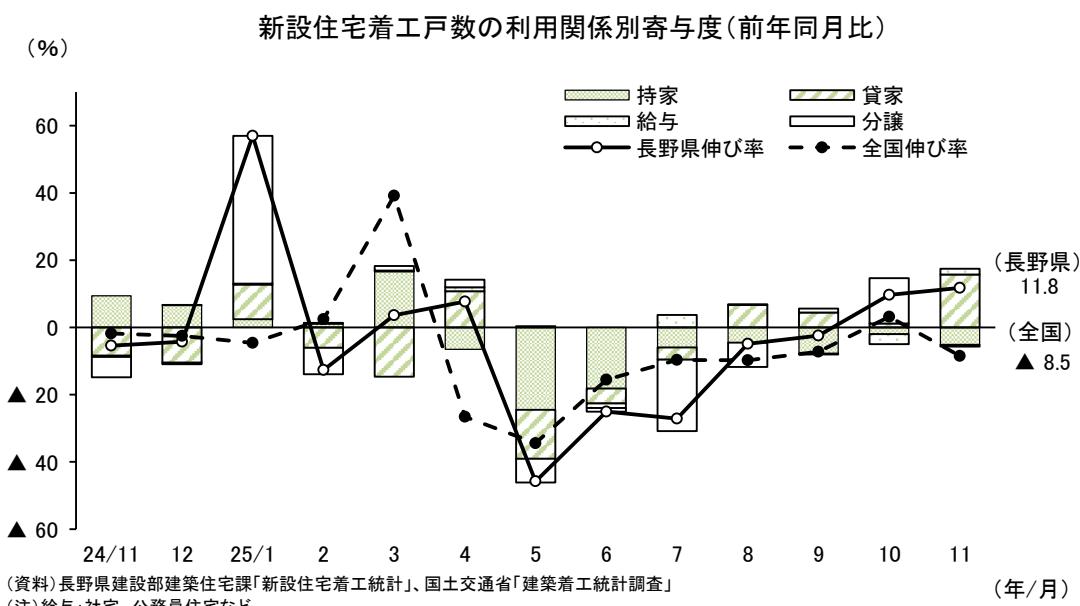
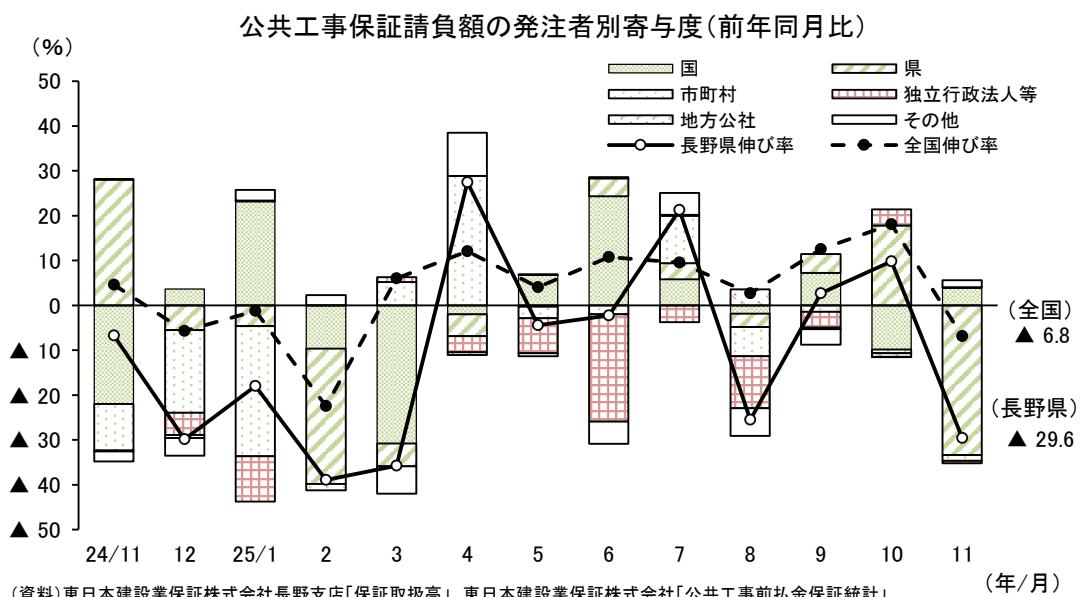
- ・11月の大型小売店売上高は、前年同月比+3.4%（売場面積調整前）となり、50カ月連続で前年を上回った。食料品は、コメや調味料等の販売価格の上昇などが続き、同+5.4%となった。衣料品は、物価上昇により節約志向が高まったことに加えて、天候要因からコートやジャンパーなどの重衣料で買い控えの動きがみられたことなどから、同△10.5%となった。雑貨・その他も、時計や宝飾品、化粧品などが伸び悩み、同△4.5%となつた。
- ・11月の乗用車新車販売台数は、新型車の市場投入が一服していることなどにより、前年同月比△4.9%と5カ月連続で前年を下回った。車種別にみると、軽自動車は前年同月比+7.0%と2カ月連続して前年を上回った一方、普通車は同△18.7%と2カ月連続、小型車は同△0.1%と7カ月連続で前年を下回った。



建設投資

公共工事保証請負額は3カ月ぶりに前年を下回る

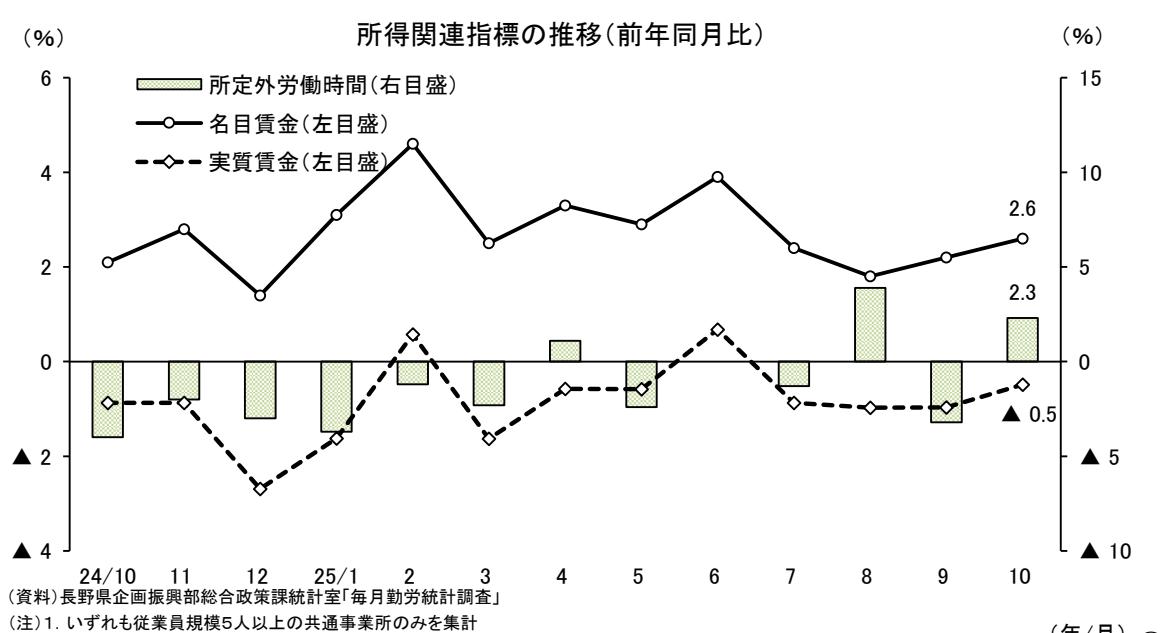
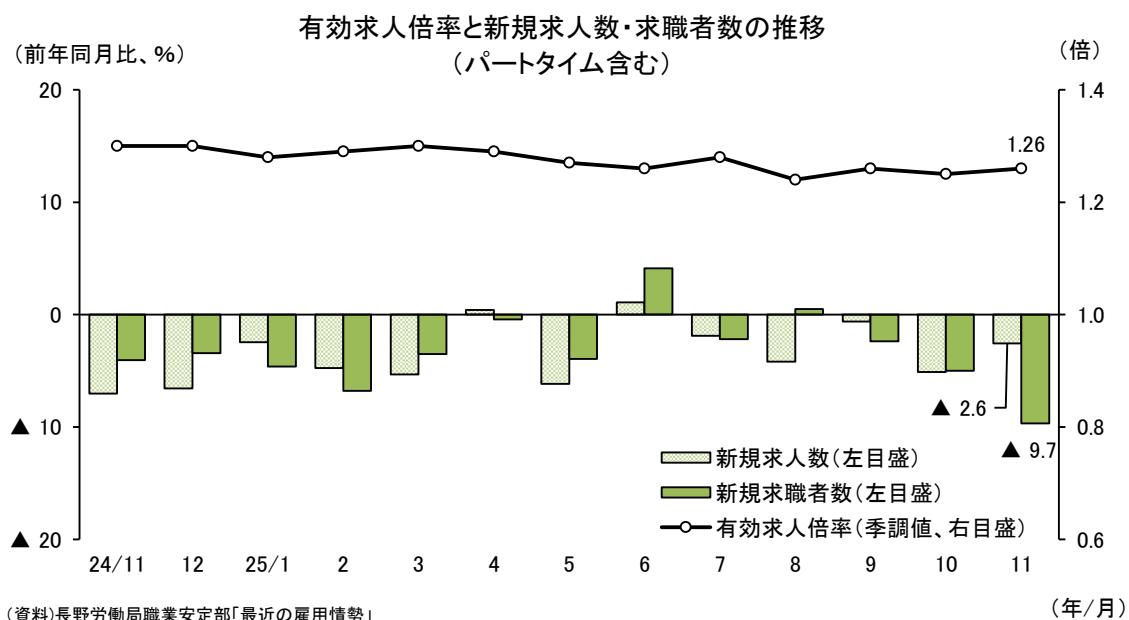
- ・11月の公共工事保証請負額は、前年同月比△29.6%の89億4,100万円となり、3カ月ぶりに前年を下回った。発注者別にみると、国が同+80.9%、地方公社が同+25.6%、その他が同+202.8%と増加したものの、県が同△61.6%、市町村が同△3.4%と減少した。
- ・11月の新設住宅着工戸数は、前年同月比+11.8%の997戸と2カ月連続で前年を上回った。利用関係別にみると、持家が同△8.3%、分譲が同△4.4%と減少したものの、賃貸が同+61.9%、給与が同+1600.0%と増加した。



雇用

有効求人倍率は2カ月ぶりに前月を上回る

- ・11月の有効求人倍率は、前月比+0.01ポイントの1.26倍となり、2カ月ぶりに前月を上回った。
- ・新規求人数(全数)は前年同月比△2.6%となり、5カ月連続で前年を下回った。このうち常用は同0.0%、パートは同△6.6%となった。主要産業別では製造業が同+3.8%、医療、福祉が同+0.2%、建設業が同+0.1%となるなど4産業は前年を上回ったが、サービス業が同△12.4%、卸売業、小売業が同△2.9%、宿泊業、飲食サービス業が同△4.5%となるなど9産業は前年を下回った。
- ・新規求職者数(全数)は、前年同月比△9.7%と3カ月連続で前年を下回った。
- ・10月の名目賃金は前年同月比+2.6%と54カ月連続で前年を上回ったものの、実質賃金は同△0.5%と4カ月連続で前年を下回った。所定外労働時間は同+2.3%と2カ月ぶりに前年を上回った。



(注)1. いづれも従業員規模5人以上の共通事業所のみを集計

2. 名目賃金の前年同月比は、きまって支給する給与の実額比較による

3. 実質賃金の前年同月比は、名目賃金と長野市の消費者物価指数(持家の帰属家賃除く総合)から当研究所が計算

県内地域別・近隣都県別有効求人倍率

有効求人倍率は東信を除き前年を下回る

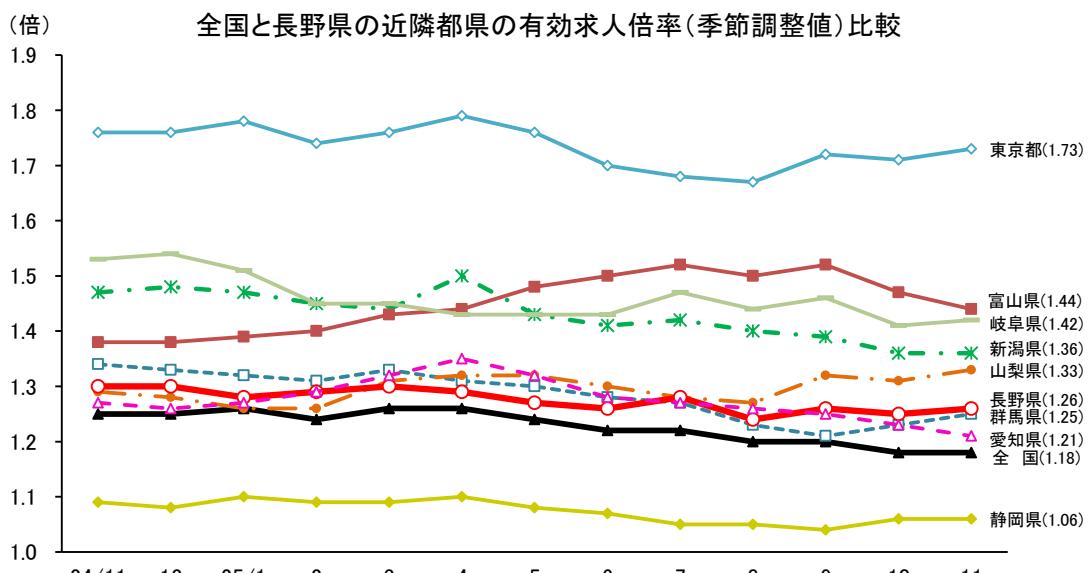
- 11月の地域別有効求人倍率(全数)は、北信が前年同月比△0.04ポイントの1.29倍、東信が同+0.01ポイントの1.37倍、中信が同△0.09ポイントの1.32倍、南信が同△0.04ポイントの1.31倍となった。
- 職業安定所別有効求人倍率(全数)は、大町が1.56倍と最も高く、次いで須坂が1.39倍となった。
- 長野県の有効求人倍率は62カ月連続で全国を上回り、順位は前月から2つ上げ14位となった。

長野県職業安定所別有効求人倍率(実数値)(25年11月)

地 域	北 信(1.29) (前年同月比▲0.04)				東 信(1.37) (前年同月比+0.01)			中 信(1.32) (前年同月比△0.09)			南 信(1.31) (前年同月比△0.04)		
	職業安定所	長野	篠ノ井	飯山	須坂	上田	佐久	松本	木曽福島	大町	飯田	伊那	諏訪
全 数	1.33	1.18	1.30	1.39	1.38	1.36	1.29	1.28	1.56	1.37	1.31	1.26	
前年同月比 (ポイント)	▲ 0.11	▲ 0.01	0.14	0.06	▲ 0.04	0.05	▲ 0.11	▲ 0.02	0.00	▲ 0.19	0.10	▲ 0.05	
うち常用	1.18	1.14	1.06	1.26	1.27	1.33	1.19	1.24	1.18	1.30	1.15	1.17	
前年同月比 (ポイント)	▲ 0.10	0.00	0.16	0.02	▲ 0.01	0.05	▲ 0.08	▲ 0.03	▲ 0.08	▲ 0.14	0.09	▲ 0.06	

(資料)長野労働局職業安定部「最近の雇用情勢」

(注)実数値とは、新規学卒を除きパートタイムを含む季節調整前の原数値



(資料)厚生労働省「職業安定業務統計(都道府県別有効求人倍率の推移)」

(注)1. 新規学卒を除きパートタイムを含む

2. 長野県の近隣都県および、経済規模、産業構造が類似している県